

## 研究推進委員会通信

令和元年7月18日

今年度も、郡上市教育研究会主催の研究授業や白鳥中学校の公表会に向けた研究授業に多くの先生が参加していただいています。ありがとうございます。本校の生徒の大半が郡上市内の小・中学校出身ですし、過半数が白鳥地域の学校の出身です。生徒が高校に入学するまでに「どのような学び方をしてきたか」を知ることが、生徒の学びやすさにつながります。白鳥地域小・中・高合同教科部会に向けて、高等学校における連携の成果を各教科で示していただけると嬉しいです。



小集団で意見を述べて、全体で交流する活動（国語科）



授業研究会の様子（理科）

岐阜県内の多くの小・中学校は3年計画で研究主題を立て、その成果を公表会の場で示しています。今年度は白鳥中学校が公表会を実施します。4月に白鳥中学校の研究構想図「白鳥STAR計画」を配布していますが、研究会で討議されているポイントを説明します。

### 1. 「中心となる授業」

その単元でつきたい力に最も迫る授業。単元の最後に設けるのではなく、教科・科目・指導内容によって柔軟に設けることができる。その単元で何ができるようになるのかという見通しを、教員も生徒ももっていることが望ましい。

※白鳥中学校は「学びの地図」という高等学校におけるシラバスの各単元ごとの詳細版を配布しています。

### 2. 「チャレンジタイム（CT）」

知識・技能を得た生徒に対し、難易度の高い課題（答えのない課題＝最適解の課題でも可）を与え、試行錯誤させる。その活動の基盤となるのが小集団学習。主体的・対話的で深い学びを具現する時間。



数学科では、「 $\sqrt{2}+\sqrt{8}=\sqrt{10}$  にはならないことを証明する」というチャレンジタイムを設けました。生徒は試行錯誤しながら、既習内容の知識を活用し、協働的に問題を解いている姿が見られました。その後は、全教員で省察を実施していました。

本校の1年生は中学時代にチャレンジタイムを受けており、少し難しい課題に対して協働的に取り組むという活動を体験しています。ぜひ、本校でも今年度中に高校時点の発達段階を考慮した、より高次のチャレンジタイムの設定を試みることができたらと思います。